

雅楽だより

《目次》

- 北海道の雅楽について 山本泰照 1
- 百年前の『詳解右舞譜』を改定し発行 雅楽道友会 1
- 雅楽との新しい出会い 初井徹 4
- カーネギーホールによせて 川口功 5
- 現代語訳『案家録』(13) 遠藤徹 6
- 笙の和音的解明 下 (1) 芝祐泰 6
- 情報欄 9

第51号
発行

2017(平成29)年10月
雅楽協議会



全道雅楽交流会 雅楽・神楽・舞楽演奏会 北海道稚内市 2017年5月20日

北海道の雅楽について

北海道神社庁雅楽講師

北門神社 宮司 山本 泰照

稚内市での北門神社御鎮座百二十年記念奉祝、雅楽・神楽・舞楽演奏会は五月二十日、ANAクラウンプラザホテル稚内の鳳の間で元宮内庁式部職楽部首席楽長の安齋省吾先生をお招きして、総勢二十二名の出演で管絃の

平調の音取に始まり、越天楽・陪臚の演奏、楽器紹介、北海道初演の神楽其駒三度拍子と人長の舞を伴う揚拍子、胡蝶と陵王の舞楽、長慶子という休憩をはさんで約二時間の演奏時間ではありましたが、定員一杯の三百名を超えるお客様に大変感銘深い演奏を披露することができました。

北海道の雅楽の歴史は、明治二十三年頃北海道皇典講究所での講習会に端を発し、昭和十五年の皇紀二千六百年記念の「浦安の舞」

百年前の『詳解右舞譜』を改定し発行

雅楽道友会

約百年前、宮内省楽部の中で「明治撰定譜の右舞の舞譜は極めて簡単な記述であるため忘れた時は絶対にその用を為さない、そこで百年後の人たちの為に舞譜の解釈の統一と、もし忘れても分かるような舞譜を作ろう」と舞譜の改善に取り组まれました。その舞譜の詳解の作業に携わったのが宮内省楽部楽師多忠行、多忠朝、豊昇三氏らで、大正十年に取り組み始め、昭和六年に『詳解右舞譜』として完成させました。

普及活動に伴い、作者である当時の宮内庁式部職楽長であった多忠朝師・多忠龍師が来道され、札幌・上川・小樽等で指導されたのを機に盛んになってきたのだと思います。又、小樽住吉神社の星野三郎宮司が神職養成所を開設され、子息である星野文彦氏が自著祭祀楽の概説の中でも述べられておりますように昭和六年國學院大學に入学され、当時の宮内省楽長多久元師に筆筈と雅楽故実を、同じく省楽長の豊時義師に笛と打ち物を、元楽長の多忠龍師に笙と合奏法を学び、昭和二十二年に北海道神社庁の参事になられてからも、当時の楽長東儀兼泰師に先生が亡くなられるまで筆筈を習っておられたようでございます。この神社庁の参事に就任されて以降、毎春に雅楽の講習会が始められるようになりました。

この度この本を旧字体を新字体に改め、分かり易く加筆するなどして『比考・詳解右舞譜』として雅楽道友会の五〇周年記念事業の一つとして発行されました。



『比考・詳解右舞譜』

(3ページ 3段へ続く)



全道雅楽交流会 人長の舞 2017年5月20日
安齋省吾元宮内庁式部職楽部首席楽長(右端)



全道雅楽交流会 胡蝶 2017年5月20日



第二十二回 雅楽・祭祀舞 研修会 昭和六十二年三月八日



第3回雅楽交流会 平成9(1997)年5月30日

私が、昭和五十年に北海道神宮に奉職し、相前後して「浦安の舞」の多静子先生が、北海道神宮へ指導に来られるようになり、昭和五十三年には、北海道神宮本殿復興遷座祭奉祝祭において「人長の舞」を演奏しようという事になり、星野文彦先生の師事されていた東儀兼泰先生の子息で、当時楽師であられた兼彦師にお願いをして、年二回「人長の舞」と雅楽演奏をご指導頂くことになりました。その後舞楽の修得をしたという事で「蘭陵王」・「左方 還城楽」・「迦陵頻」を教えてくださいました。

父の病氣療養を機に、北海道神宮を退職し郷里の後志管内の喜茂別町に戻りました後も北海道神宮の兼彦先生の講習会の折にはお邪魔をして練習に励み、神社本庁の講習会にも折々参加をさせて頂いて頂いておりました。間もなく北海道神宮におられた池田清美さんが、後志管内岩内神社の宮司として戻られたのと、岩内町で開催される北海道神社関係者の大会で「蘭陵王」を披露する事となり、当時の星野文彦先生様から無謀だと言われながら、雅楽器を扱った事の無い後志支部神職を指導して演奏をすることができました。その後、後志雅友会が発足し神道青年全国協議会の大会が北海道の当番で札幌であり、清興として「右方の還城楽」を演奏したいという事になり、宮内庁の楽師さんにご指導頂き、

何とか演奏をすることができました。この演奏が全国各地から集った青年神職の人々に深い感銘を与え、これを機に全国でも雅楽の演奏会の記事が、神社新報等で報ぜられるようになったと記憶しております。北海道神社庁の雅楽講習会にも東儀兼彦先生をお願いすることになり、笛は当時楽師であられました安齋省吾先生に、笙も宮内庁の先生に三年毎にご来道ご指導を頂くことになり、兼彦先生じきあとも宮内庁の先生にお願いをして今日に至っております。



星野文彦先生

北海道各地の雅楽会もできて、函館楽所・上川雅楽会・十勝雅楽会等々充実した演奏を行っております。とりわけ、上川雅楽会は本年十月に設立二十周年記念演奏会が、予定されております。小樽の住吉神社には、左右の火焰太鼓、管方装束、迦陵頻・胡蝶・人長舞装束を所有。上川管内の旭川には、北海道護国神社があり、古くから雅楽が盛んで蘭陵王面・装束、陪臚四人舞装束、白浜四人舞装束を所有されており、青森八甲田山神社の小笠原永裕宮司の指導のもと平成二十四年十月に陪臚の四人舞が、上川雅楽会設立十五周年記念演奏会で再演されました。又、平成十四年には北海道内の雅楽や神楽



第75回雅楽研修会 平成29年2月26日

舞を愛好する女性神職・神職夫人の方々により北海道女子神職協議会設立十五周年を記念して木乃花雅楽会が設立され、各種活動を展開しております。

函館楽所には、蘭陵王面・装束、本庄雅美会員の手彫りの落蹲の面、胡飲酒面、抜頭面等があり、定期演奏会も行われております。千歳神社には蘭陵王面・装束、落蹲面・装束があり、後志雅友会には、敷き布、楽舎幕、京極八幡神社の尾形日出磨宮司の力作である高欄があります。

北海道神宮には、蘭陵王面・装束、還城楽面・装束、迦陵頻装束、納曾利面・装束、人長の舞装束等があり、現在右方の還城楽を習得中です。

平成十二年に旧樺太サハリン州にて雅楽の演奏会をして欲しいとの招待があり、北海道文化協会から援助を戴ける事となり、名称が必要と云う事で、急遽北海道雅楽振興会という団体が発足しました。北海道神社庁で開催される雅楽の講習会も、広く一般の人にも教えるようになり、雅楽振興会発足当初より、二月から十一月の十ヶ月、土曜日から日曜日に調子を変えて、午後一時より午後六時まで講習会を行っております。私も稚内を車で朝五時に発ちまして、午後一時からの講習会に間に合うように出かけております。

北海道雅楽振興会も、千円の講習料等をコツコツ貯めて、楽太鼓・鞆鼓・鉦鼓・直垂六領・箏・楽琵琶・舞楽用譜面台等を所有するまでになりました。

平成十八年からは、札幌の音楽ホールキララで新春恒例の伶楽舎の皆さんによる新春演奏会が開催されており、雅楽に接する機会も多くなつてまいりました。

北海道雅楽振興会も、サハリンでの演奏会の後、毎年全道各地で演奏会を行うようになり、札幌でのひなまつり公開演奏会を皮切りに、小樽、十勝、旭川、函館、札幌のキタラ小ホール等で演奏会を重ね、本年最北端稚内での演奏会となりました。

振興会の講習も一般の人、特に女性の方が多く講習に来られるようになりました。

これからもいろいろな演目に挑戦をして、一人一人の技量が上がっていくことを期待しています。

（1ページ 下段左より）

本の序文で上明彦元宮内庁楽部首席楽長は「本書『比考・詳解右舞譜』は百年前の記述を残しつつ、現代の動きのほかに様々な内容が書き加えられています。読者は何がどのような変化してきたのかを知り、理解した上で自身の舞に活かすことが出来るでしょう」と記しています。

『詳解右舞譜』の書かれた経過や内容などがわかる様に、百年前の『詳解右舞譜』から「緒言」を、新刊『比考・詳解右舞譜』から『舞譜編纂にあたり』を雅楽道友会の許可を得て掲載します。（編集部）

『詳解右舞譜』より

「緒言」(カタカナを平仮名にし、ルビを付して掲載)

緒言

従来伝わるどころの右舞譜は極めて簡単な記述であるため、失念したる場合には絶対に其の用を為さざることは齊しく吾人の痛感するところである。是れ全く往昔に於て口伝を主とし舞譜は単に要所の見出しに過ぎざるものと為された時代の遺物なるが為めにして自然今日に至り各自の受けし教師並に時代によりて招来するの都合にも又是非なきことである。果然武井楽部長の就任せらるるや、舞譜解釈の統一を計るため且つは失念を余儀なくせらるるの時勢に相遇するに際し將百年の将来を杞憂して舞譜改善の擧を賛同せられ余等に委嘱するところであり、余等感佩幾星

霜にして漸爰現実と接近したる極めて細密なる舞譜を完成するを得たり。

稿成りて遺憾感じ能わざるは武井楽部長在任中に脱稿なしえざりしことにして係員の齊しく慚愧に堪へざるところである。楽道の上に深甚なる理解を有る諸般の点に留意せられて細譜作製の大業を完了せしめられたる武井楽部長に対し爰に敬意と謝詞を捧ぐる次第である。

而して本譜は長記事となるを厭ひたる為の可成的言詞を省きたれば文章としては絶対に価値を認められざるも其要を盡すに極めて細密に亘りたる点は将来所謂右舞譜の虎の巻として正に真価あることを確信するものなり。而して本譜は全八巻に修。之れら繕く者は先づ第一巻の舞譜解説を熟読することを緊要とす。

本譜作製に当り豊昇三氏は係員外にありて始終墾篤なる後援を寄せられたることを此所に附記してその深甚なる厚意を謝す。

昭和六年十一月記 係員 多 忠行
同 多 忠朝 草稿

参考
武井部長(武井守成)

大正十年(一九二一年) 楽部長着任
多忠行 (明治四年〜昭和一〇年)

多忠朝 (明治十六年〜昭和三二年)

豊昇三 (明治二十三年〜昭和四八年)

昭和六年 当時四二歳

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

『比考・詳解右舞譜』より

《舞譜編纂にあたり》

雅楽道友会を興された蘭廣教先生の実兄である元宮内府式部職楽部楽長・蘭廣育先生がご病気のため全ての指導を了えらるるにあたり、「右舞は師から授かった此の譜を基にやっつけていけば間違いないから」とのことです『詳解右舞譜』を賜りました。『明治撰定譜』に比べ非常に分かり易く、初めての曲でも読み深めていくと何とか形になりました。然れども、この譜は表に登場しないが為に次第に時代に置いて行かれることとなり、今では使われていない型や作法が様々な形で点在しています。しかも映像が普及するにつれ舞譜というものが必要とされない風潮となり、遂には埋もれてしまいました。しかし、道友会

顧問であられた東儀俊美先生も、録音録画が一回出ている昨今は口伝という雅楽伝承形態の危機であると警鐘を鳴らされているように、多くの奏法や説がある中の一つである演奏や舞振だけが、唯一の正道の如く一人歩きしてしまふのは危険な状況だと云えます。本舞譜は大正一〇年頃から作成が始まり昭和六年に完成したとのことで、緒言のなかに「百年の将来を杞憂して」とあります。百年後、即ち現在の人達にこそ活用して貰いたいとの強い意があるのです。只、残念なことに平成の世に於いては、その存在さえ知る者も居なくなりまして。楽舞は綿々と受け継がれつつも時代と共に変化して現在がありません。これらを鑑みますと、昔と今、どちらが正しい、間違っているというのではなく、全てを一説として残していくことが肝要であるとい

えます。今回、指導頂いた池邊光彦先生には難解部分も根気よく考慮頂き、忘れられていた先人達の遺産に息を吹き入れ蘇らせることが出来ました。本書は雅楽道友会五〇周年記念事業として世に出させて頂きますが、これからも添削を繰り返して、元譜を興された諸先生方の憂いを払拭できるよう努める所存です。

雅楽道友会楽長 福岡三朗

『比考 詳解 右舞譜』

発売予定10月24日 定価4万円(税込)

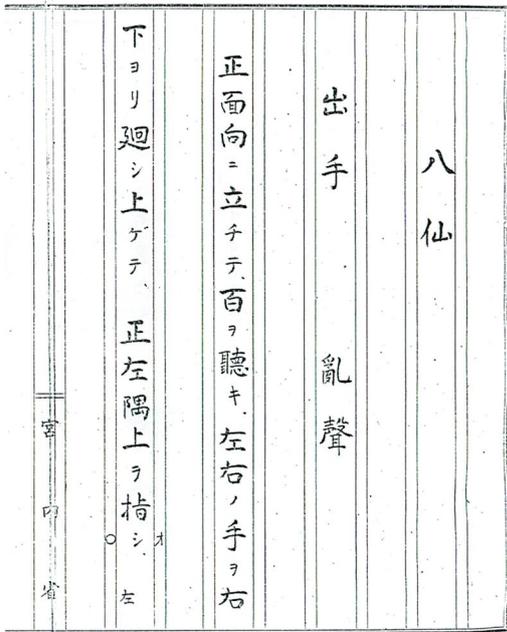
仕様 和綴じ(初版限定)

横270mm×縦189mm

254ページ予定

ご購入お問合せ 雅楽道友会

TEL 03-3783-2371



元譜『詳解右舞譜』八仙より

出手一乱聲

- 1 正面向に立ち、百を聴き、左右の手を右下より廻し上げて、正左隅上を指し、左足を向へると一落居つつ左右の手を右に廻し、右足を寄せる
 - 2 正左隅上を指し、右隅上に指し違へ、右足を立ると一落居つつ左右の手を上げて、左へ廻し、左足を寄せると一右指となり、左足を突きて向へ出し、右足を落居つつ左手を前に下げ、左足を寄せると一下より披き、左足を突きて向へ出し、右足を
- 〔注〕
百と同時に左右の手が動き始める

『比考右舞譜』八仙より

雅楽との新しい出会い

初井 徹

(コロンビア大学人文科学大学院

音楽理論博士課程)

今年のコロンビア大学MP(Mentor/Protégé)プログラムは5月25日から7月9日まで行われ、参加者は雅楽(三管)3名、邦楽(箏、尺八)3名の6名でした。そのうち、箏を専攻したのは日本人留学生の初井徹さんでした。海外に暮らす日本人が、日本で行われた雅楽の研修に参加して感じた所感を寄せていただきました。 編集部)



今年のプログラム参加学生。左からコール・ワグナー(龍笛)、ルツィエ・ヴィツコバ(箏)、初井徹(笙)、サラ・ハイニー(箏)、マリサ・リュウ(箏)、ウェイタオ・シュウ(尺八)。写真撮影:李爽、会場:東洋英和女学院講堂

今夏、コロンビア大学の中世日本研究所・日本文化戦略研究所が毎年実施している雅楽夏期研修プログラムに、笙の研修生として参加いたしました。研修中は楽器の個人レッスンをはじめ、国立音楽大学や小野雅楽会での合奏の練習、左舞の体験などを通して、雅楽を包括的かつ集中的に学ぶ機会を得ました。本稿では、米国大学院で音楽理論を学ぶ立場から、海外で日本の伝統音楽を学ぶきっかけ、また「逆留学」の経験を通して感じたことについて述べたいと思います。

意外なことに、私と雅楽の出合いの場は日本ではなく大学進学先の米国でした。バイオリンを弾いていたこともあり、大学では西洋音楽を中心に履修したため、日本の伝統音楽に触れる機会はほとんどありませんでした。しかし、恩師に武満徹などの日本人作曲家の音楽を紹介された事をきっかけに、日本人が西洋音楽を学ぶ意義について考えるようになりました。自問自答しているうちに、日本人でありながら日本の音楽について何も知識がないことに気付いき、心の奥に何か違和感を感じました。

ちょうどその頃、大学でハーブを教えておられた先生が「レイガクシャ」という日本の雅楽合奏団の公演に出演されることを聞き、ニューヨークまで聴きに行くことにしました。この公演が雅楽との初めての出会いです。それまで神社などのBGMとしてしか耳にすることがなかった雅楽の旋律、音色、調律は新鮮でとても衝撃的でした。伶楽舎のニューヨーク公演から7年経った今夏、あの時ス



玉川大学の講義に参加して《越天楽》《五常楽急》を演奏

ジに立っておられた先生方に直接ご指導していただくという奇遇な巡り合わせに恵まれました。

コロンビア大学大学院に進学した当初は、日本の伝統音楽に題材を求めた20世紀の作曲家について、楽理的研究を進める予定でした。しかし、笙を学ぶうちに、雅楽そのものの楽理・楽器の奏法に配慮した独自の分析法の研究を進める必要性を感じました。

今年の11月、米国音楽理論学会(Society for Music Theory)の総会にて、変形理論(Transformational theory)を用いた笙の手移りの分析法について発表する機会をいただきました。発表のほとんどが西洋音楽の研究である中で、本学会ではまだ「珍しい」雅楽

の研究が選ばれたのは大変嬉しい知らせでした。今回の研修は、この研究の発展に欠かせないものになると思います。手移りの学習法をはじめ、各調子に現れる合竹のパターン、根音と手移りのタイミングの関連性など、直接先生方に指導いただくことによって、現在のプロジェクトに活用できる新しい発見や、今後の研究課題を得ることができました。今回の研修を活かし、伝統的な「音楽理論」の枠を広げ、雅楽の楽理と奏法の相関性について更に考えていきたいと思っています。

(謝辞・今年プログラム開催につきましてご協力いただいたすべての皆様、機関に厚く御礼申し上げます。コロンビア大学中世日本研究所・日本文化戦略研究所)

カーネギーホールよせて

雅音会 川口 功



カーネギーホールにて上明彦元宮内庁楽部首席楽長(右より3人目)

この度、オカリナ奏者の善久氏(Zenkyu)が日米親善コンサート・イン、カーネギーホールに3年前に続く2度目の招待を受けた。今回のコンサートにはZenkyu氏が指導する「Zenkyuオカリナグループ」とNF・レディースシンガーズ(指揮古橋富士雄先生)、と共に雅楽は善久さんの長兄の雅楽愛好家・鈴木敏正氏を団長に東京天理雅楽アンサンブル(音楽指導 上明彦先生・元宮内庁式部職楽部首席楽長) 総勢22名で、5月30日午後8時に出演。小生は弟の安藤恵介氏に誘われて名古屋から3名で参加させていただき幸運に浴した。

まだ夢覚めやらぬ感動の一端を・・・

5月27日午後5時に成田空港を発つて空路12時間、ニューヨーク・リバイ空港に現地時間の同日午後4時頃着(時差が13時間ある)バスでホテルへ直行。旅装を解いて相部屋の安藤氏とささやかに乾杯。

二日目からマンハッタンの高層ビルが林立する街をバスの車窓から見学、所々で降り立つて散策や買物で一日半を過ごし、リハーサルと本番に一日半。

演奏当日のリハーサルはホテルからカーネギーホールまで直垂、振袖、オカリナの揃い服で「雅楽を吹きながらだと、もつと良かった」などと軽口を叩きながら道を行く人々の注目を浴び、カメラの放列にちよつぱりタレント気分を味わった。

世界のミュージシャンの羨望的の舞台は
目くるめくような照明に舞い上がりそうで、
一步一步確かめるように進んだ。

演奏曲目は、平調音取 朗詠 嘉辰 陪臚
で舞楽は抜頭。おどろおどろしい面の舞人が
舞台狭しと舞い狂うさまに、観客の目は釘づ
け。万雷の拍手で退場。舞人の安藤氏が面を
小脇にして再登場、一同演了の礼。

面とは似ても似つかぬ端正な顔立ちのスラ
リとした好男子に、拍手が爆発した。私達は
用意された二階のVIPルームに案内され、
特等席からまさに百花繚乱の色あでやかな振
り袖姿の女性合唱団の「さくらさくら」「手ま
り歌」などに惜しみない拍手を送った。歌い
ながら撞く毬が舞台を弾んで一回りする演出
が何とも華やぎ、これぞ祖国日本の歌「荒城
の月」が悲しい程美しい情景を思いださせ、
しらべに酔わせた。

自分達もこのような大観衆から熱い感動を
もらったと思いついて胸が熱くなった。後を
受けたオカリナは一転、当地馴染みの曲のオ
ンパレードで大ホールをやわらかく優しく包
み、惜しみない熱い拍手、アンコールが止ま
ず、夜が更けていった。大舞台の緊張から解
放されて、合同の打ち上げ会は皆の笑顔がは
じけた。夜も明けやらぬ5月31日早々帰り支
度。往路を遡って6月1日午後、成田空港に
帰着。道中羨なく
お連れ通りいただ
き、無事旅装を解
くことが出来た。



現代語訳 『楽家録』(13)

監修 東京学芸大学教授 遠藤 徹
十三 三管総論

第三十九 連吹の説 (P487)

「連吹」というのは、直ちに連続して吹く
意味である。例えば、破と急を奏するとき、
「破」を吹き終わりに、又横笛が「急」を吹き
出す、他の管これに従って吹く、これは、常
のことである。連吹というのは、「急」を吹
き終わり、各管が直ちに「急」を連なり「統
いて」奏するものである。自「もとより」他
はこれに準じる。

第四十 重吹の説 (P487)

「重吹」というのは、舞楽のときこのこと
がある。舞楽が終わり、そして舞人がまさに
入ろうとするとき、再びその曲を奏するのを
重吹という。「甘州」などの舞にこのことが
ある。

第四十一 換頭、重頭、

採頭的事 (P488)

「換頭」「重頭」「採頭」と
いうのは、楽曲を二返で奏
するときにおいて、このこ
とがある。近代はこれを混
ぜて総て換頭といっている
のは恐ろしくおかしいこと
である。謂うところの「換
頭」は、再び返すに及び、

頭の詞「旋律」を変えてこれを吹く。これ換

頭とするのは、「波河鳥」「三臺鹽破」などはこ
れである。(換あるいは喚と書く。今考える
に換は「かえる」とりかえる」である。意味
が通る。喚とするのはおかしい)

「重頭」は再び返すに及び別に詞「旋律」
を加えて頭に吹き移る意味である。「陵王」

「合歎盪」の類がこれである。

「採頭」は再び返すに及び頭の詞「旋律」
を除いて奏する意味である。「壹團橋」「劍
氣禪脱」などはこれである。以上の他「他」
は、類「似たものを」を以つてこれを推し量
るべきである。(余 付け加えると、「劉貞父
詩話」を見ると、曰く重頭歌詠響 聿入破の
舞腰紅乱旋 重頭 入破 絃管家語也)云々
とある。この説によると即ち「重頭」「換頭」
は、本邦「日本」の作つたものではなく、本
「元」は中華の樂家の語である。)

笙の和音的解明(下)

藝術院會員

芝 林 奏

下(1)

笙保持音の階名

笙は雅楽各調に活用されるので、その保持
音の階名も調に随つて変動するものである。
古来の記録並びに実用上の伝承による宮音、
即ち「平調音」(E)を根音として調律される
故に、「平調宮の笙」と云われる基本的な階
名は、宮音よりの律変によつて簡単に定め得
るものであるが、之を平調宮呂律和音の連繫
によつて示すと(譜面1)次の如くである。

律呂和音連繫の第一段では、各和音の宮(根
音)と外声(第五音)で呂律共通の階名を示し、
宮音(根音)上第四度にある律呂和音の内声
と宮音上第二度にある呂和音の内声は、各単
独に階名を示す。(譜面2)
(律内声は白符、呂内声は黒符にと表す)

更に律和音連繫の第三段にて、其の内声に
「変羽音」(C)が示される。(譜面3)

以上の平調宮呂律和音連繫三段を総合する
と「平調宮の笙」としての階名は次の如くで
ある。(譜面4)

右に随つて雅楽各調に於ける笙保持音階名
の変動は左の(譜面5-1から5-4)如く

『楽家録』 日本古典全集

第四十一 換頭重頭採頭之事
謂換頭重頭採頭者於樂曲返奏時有此事近代混之總謂換頭者非乎所謂換頭
者及再返而變易詞吹之是爲換頭詠河鳥三臺鹽破等是也換頭採頭者易也
重頭者及再返別加詞吹移于頭之謂也陵王合歎盪之類是也採頭者及再返除頭之謂
也重頭採頭之謂也壹團橋氣禪脱等是也以上他可以類推之 餘見劉貞父詩話曰重頭採頭採頭入破
頭字聲此說則重頭採頭非本指也 爲之者一本中樂家之謂也

譜面1 平調宮呂律和音連繫 第一段

譜面2 平調宮呂律和音連繫 第二段

譜面3 平調宮律和音連繫 第三段

譜面4 平調宮笙保持音の階名 (基本階名)

譜面5-1 色越調の場合

譜面5-2 雙調の場合

である。
尚「水調」は黄鐘調に同じ、又「太食調」は平調（即ち笙本来の階名）に同じで、但しその運用に変異がある。

笙和声（相竹）の和音的解明
古人は「四簧齊鳴」と律呂精義（朱載堉著）に記されている笙の和声は、我が国では其の手法上からは「ツカミ合フ」（統教訓抄）と云われ、音律上からは「相竹」、即ち「調和する竹管の音」とも云われて来た。

雅楽の和声として其の特殊な形態に注目されて来たが、これはそれ自体が本来のものではなく、雅楽の律、呂兩種和音の結合によって構成された主要和声と、主要和声の一端を省略して所要の音律を付加して合成した補助和声とである。

通常曲の和声
笙は其の保持音十五の内、五音はその管名を以て呼ぶ和声を持たず、十個の和声はそれぞれの管名を以て其の和声の名としている。（譜面6）

無簧の也、毛の兩管は勿論の事、千、八、言、七、上の五律はその和声（相竹）を持た

ない。そして「十」と「比」を除き「下、乙、工、美、一、行、九、乞」の九和声は、その最低音に和声名とする律を置いている。合わせて十一個の笙和声は自から主要なるものと補助なるものの別がある。

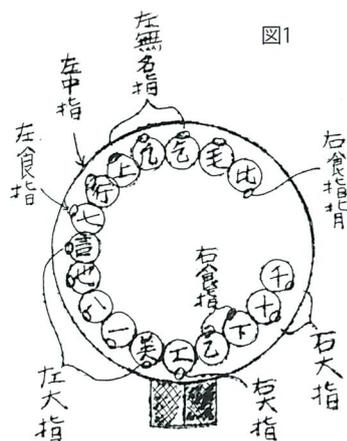
即ち雅楽六調の宮音に当る「九、乙、千、下、乞、一」の五和声は主要なるものであり「工、下、十、美、行、比」の六和声は補助たるも

譜面5-3 黄鐘調の場合

譜面5-4 盤渉調の場合

譜面6 笙の和声(相竹)

譜面7 笙管の運指法



この様な運指に見られる笙の指法上の制約と「平調宮の笙」と云う根本義を考慮に入れて笙和声(相竹)の構成は向究されるべきものである。

如斯定められた指法の内、「七、行」の二律は笙和声の基本連続音として、左の食指と中指は常に指孔を按(閉塞)して、所謂運指は行わないものである。

笙は十五個の保持音を左右の六指にて操作するので、指孔を閉塞すると管内の気柱が下端(根継)に装備された簧(した)の振動数に合致して、声律を発する仕組みになって居る。古代楽器として真に絶妙な機構を持つものである。

のである。
この主要なる和声を協和声、補助たるものを不協和声と伝承しているが、之は雅楽的音感による区別である。
なお右に示した笙和声は現行のもので、安倍季尚撰『樂家録』(元禄3年 西1690)の記録と同じである。

より古き記録として唐舞師^{くわんりやう}...
訓抄(元亨12年完 西1322)の笙相竹の記録があるが、これは笙指法上から理解したい和声(相竹)を記録したものである。
更に笙師豊原統秋撰の『體源鈔』(永正9年 完 西1512)の記録があるが、之は続教訓抄の記載を踏襲記録したもので、笙吹奏家

の記として不可解なものである。思うに唐舞師^{くわんりやう}...
師^{くわんりやう}^{くわんりやう}...の記を古記として載せ、笙師として承知している真の相竹は、秘蔵と云って表さなかつたものであろう。
笙は右手大指、食指と左手大指、食指、中指、無名指の、左右合わせて六指を用い、竹管に空けた指孔を開閉して奏する。(譜面7)

「千」より第三第四の管「下」と「乙」は円型に並立した内面に指孔があり、第十一管「七」と第十二管「行」の二管は、左食指中指を伸張した位置に指孔を持ち、第十七管「比」は管の左側に指孔を配してあり、右食指の背で之を開閉する機構である。(譜面7)
(図1)
笙は十五個の保持音を左右の六指にて操作するので、指孔を閉塞すると管内の気柱が下端(根継)に装備された簧(した)の振動数に合致して、声律を発する仕組みになって居る。古代楽器として真に絶妙な機構を持つものである。

主要和声の構成

前項「笙保持音の和声的解明」にて示された如く、平調宮音上の呂律両和音を中心として、その外声内声の連繋が理論的に笙保持音を明示した。

斯く和音の連繋にて確実に示された保持音による特殊型態の笙和声も、呂、律両種の和音によってその構成が解明できるのである。

和声の分離型と密集型

呂、律の和音は、その上下外声の連繋を以って結合すると分離型の和声を構成し、その内声の連繋を以って結合すると密集型の和声を構成する。この結合の二方式が雅楽和声の根本である。

「乙」の和声 律和音系統の原型

「乙」の管は平調音（E）である。この平調音を根音とした律和音を置き、その外声（五度）と内声（四度）に連繋点を求めて各律和音を置き、之を結合すると平調音を根音とした密集型の和声が構成される。之れ即ち「乙」の和声（相竹）で平調曲の宮和声、黄鐘調曲の徵和声、盤渉調曲の律角和声などとして活躍する主要和声である。

「平調宮の笙」として、平調音上のものは宮音上の和音（略、宮和音）、盤渉音（H）上のは徵音上の和音（略、徵和音）、黄鐘音（A）上のは、律角音上の和音（略、律角和音）である。（譜面8）

「乙」の和声 律和音系統の略型

「乙」の音律は黄鐘音（A）で、平調宮の笙音階では律角音に当る。この黄鐘（A）を根音とする律和音を置き、その外声（五度）の律和音を連繋し、更にその外声に律和音を連繋して、この三個の和音を結合すると七律を持った分離型の和声が構成される。

之は「乙」和声の原型であって、完全な和声であるが、左右の六指しか用いぬ笙の指法上、左無名指用いる黄鐘音上（A）和音の内声とこの和声構成の根音で最低位の黄鐘（A）が、同じく左無名指用いる為、重要な根音は省略出来ぬので内声の志越音（D）を省略したのが「乙」の和声である。

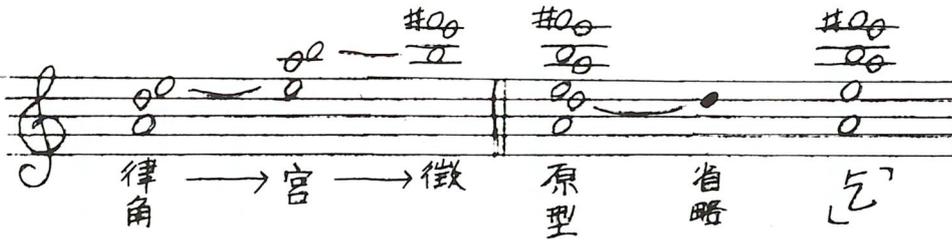
譜面8

「乙」の和声構成譜



譜面9

「乙」和声の構成譜



「乙」の和声は黄鐘調曲の宮和声、志越調曲の徵和声、平調曲の律角和声などとして活躍する、主要和声である。（譜面9）

黄鐘音（A）は笙の律角で、この連繋は、律角、宮、徵の三律和音の五度上の連繋である。（つづく）

（小野雅楽会発行「雅楽界」47号 1962（昭和37）年6月10日発行より許可を得て転載。一部旧仮名遣いを新仮名遣いに、旧字を新字にし、五線譜に新たに番号を付け、その位置は随時移動した。）

秋～冬までの主な雅楽演奏会など

- 下鴨神社 観月名月祭 (京都)
 - 10月4日(水) 午後5時半
 - 舞楽 迦陵頻 青海波 納曾利
 - 演奏 平安雅楽会
- 仲秋管絃祭 日枝神社 (東京)
 - 10月4日(水) 午後6時 3000円
 - 演目 志越調 音取 新羅陵王急 嘉辰
 - 神楽舞 他
 - 問合せ Tel 03-3581-2471
- 観月祭 西宮神社 (兵庫)
 - 10月4日(水) 午後6時 本殿舞台
 - 舞楽 八仙 陵王 女人舞 原笙会
- 伊勢神宮 観月会 (三重)
 - 10月4日(水) 午後6時頃より
 - 外宮 勾玉池 舞楽 曲目未定
 - 問合せ Tel 0596-24-1111
- 観月祭奉納舞楽 住吉大社 (大阪)
 - 10月4日(水) 午後7時
 - 住吉大社反橋上
 - 舞楽 振鈴 甘州 延喜楽 長慶子
 - 演奏 天王寺楽所雅亮会(以和貴会)
 - 問合せ Tel 06-6672-0753
- 三溪園 観月会 (神奈川)
 - 10月7日(土) 午後6時
 - 祭祀舞 朝日舞 管絃 太食調音取
 - 合歓塩 抜頭 催馬楽 伊勢ノ海
 - 舞楽 敷手 納曾利 胡飲酒
 - 演奏 横浜雅楽会
 - 問合せ Tel 045-531-0150

観月の夕べ (奈良)

10月7日(土) 午後6時 無料
大和高田さんかホール
管絃 合歡塩 長慶子
舞楽 還城楽 献茶 献花
演奏 葛城楽所雅遊会 舞 女人舞楽原笙会
主催 大和高田市文化協会
問合せ Tel.0745-53-8200
(大和高田市文化協会)

沙貴神社近江源氏祭 (滋賀)

10月8日(日) 午前10時30分 無料
本殿舞台
舞楽 胡蝶 舞 女人舞楽原笙会
問合せ Tel.0797-23-1886

今宮神社 秋の大祭 (京都)

10月8日(日) 午後7時 人長舞
10月9日(月) 午前10時 東游
演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.075-491-0082

函館楽所第10回演奏会 (北海道)

10月10日(火) 午後5時 無料
亀田八幡宮内会館
管絃 太食調音取 合歡塩 輪鼓禪脱
舞楽 胡飲酒 その他 主催 函館楽所
問合せ Tel.0138-41-5467

雅楽愛好者対象 雅楽楽器が上手になるひみつ (福岡)

10月13日(金) 午後5時
北九州市立響ホール 指導 東京楽所
往復はがきで申し込み9月5日必着
問合せ Tel.093-663-6567
北九州国際音楽祭実行委員会事務局
北九州国際音楽祭30周年記念
東京楽所・雅楽公演 (福岡)

10月14日(土) 午後3時

一般指定席 前売4千円

U-25指定席 前売2千円 当日5百円増
北九州市立響ホール
管絃 盤渉調音取 青海波 越天楽残楽三返
舞楽 桃李花 登天楽
問合せ Tel.093-663-6567
北九州国際音楽祭実行委員会事務局
第32回博雅会雅楽公演北陸
〜平家物語と雅楽(富山)

10月14日(土) 午後7時 じようはな座

2000円(当日券500円増)
管絃 平調調子 皇聲急 朗詠 十方
想天恋 五常楽急残楽三返
舞楽 還城楽(右舞)
演奏 博雅会 雅城会
ゲスト 豊英秋師(宮内庁楽部元首席楽長)
問合せ Tel.080-2415-2347(イワサ)

野宮神社 斎宮行列 (京都)

10月15日(日) 午後2時
舞楽 蘭陵王(予定) 演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.0120-1192-40

拾翠苑定例紅葉の舞楽 (富山)

10月15日(日) 午後4時 無料
回遊式庭園 拾翠苑 舞台(富山県砺波市)
管絃 越天楽 嘉辰 拾翠楽
舞楽 萬歳楽 迦陵頻
演奏 洋遊会
問合せ Tel.0763-37-0371(拾翠苑)

厳島神社 菊花祭 (広島)

10月15日(日) 夕方より、菊花祭祭典に引続
き舞楽 振鈴三節 萬歳楽 延喜楽 蘇利古
一曲 散手 貴徳 蘭陵王 納曾利 長慶子
問合せ Tel.0829-44-2020
日向大神宮 例大祭 (京都)

10月16日(月) 外宮 午後2時

10月17日(火) 内宮 午後2時

御神楽 人長舞 演奏 平安雅楽会
日光東照宮 東遊 (栃木)
10月17日(火) 正午より
例大祭御旅所祭にて東遊
問合せ Tel.0288-54-0560
宮内庁楽部 秋季雅楽演奏会 (東京)
10月20日(金)、21日(土)、22日(日)
各日、午前10時半、午後2時半
皇居 宮内庁式部職業部
管絃 盤渉調音取 青海波 千秋楽
舞楽 陵王 胡徳楽
申込は締め切っている
問合せ Tel.03-3213-1111

上川雅楽会20周年演奏会 (北海道)

10月21日(土) 午後3時半
一般1000円 学生500円
旭川市大雪クリスタルホール音楽堂
管絃 黄鐘調音取 鳥急 拾翠楽 越殿楽
神楽 朝日の舞 豊楽の舞
舞楽 胡蝶 陵王 長慶子
問合せ Tel.0166-51-9191(鎌田)

経供養 舞楽 四天王寺 (大阪)

10月22日(日) 午後1時
四天王寺太子殿前庭
舞楽 振鈴 迦陵頻 八仙 蘇莫者 長慶子
演奏 天王寺楽所雅亮会(以和貴会)
問合せ Tel.06-6771-0066

三翁神社(厳島神社の近く) 祭典 (広島)

10月23日(月) 午前10時より祭典中に
振鈴 萬歳楽 延喜楽
問合せ Tel.0829-44-2020
乃木神社 観月祭
雅楽道友会発足五十周年奉納舞楽 (東京)

10月24日(火) 午後4時 初穂料5000円

舞楽 振鈴三節 春鶯囀 進走禱 蘇莫者

陪臚 演奏 雅楽道友会
問合せ Tel.03-3783-2371
「寺社と能く四天王寺」 (東京)
10月28日(土) 午後1時 国立能楽堂
正面 6300円
脇正面 4800円(学生3400円)
中正面 3200円(学生2200円)
天王寺舞楽 採桑老 甘州 蘇莫者
演奏 天王寺楽所雅亮会(以和貴会)
能 弱法師 大槻 文藏(観世流)
問合せ Tel.0570-07-9900

よつこそ、奏で舞う「雅楽」の世界へ

10月29日(日) 住吉神社能楽堂
1回目 午前11時、2回目 午後2時半
小学生500円 一般1000円
管絃 平調越天楽 盤渉調越天楽 青海波
舞楽 蘭陵王
*各回終了後ワークショップあり(有料)
演奏・解説 伶楽舎
問合せ Tel.092-263-6300

「雅楽の夕べ」足立山妙見宮 (福岡)

10月29日(日) 午後3時 神楽殿
舞楽 蘇利古 迦陵頻
演奏 関門雅楽会 舞 女人舞楽原笙会
明治神宮 舞楽 (東京)

10月29日(日) 午後3時半

舞楽 振鈴 陵王 延喜楽
演奏 楽友会
問合せ Tel.03-3379-5511
古典の祭典 管絃と舞楽の特別公演(京都)
11月1日(水) 正午12時 京都アスニー
管絃 越天楽

11月1日(水) 正午12時 京都アスニー

11月1日(水) 正午12時 京都アスニー

舞楽 萬歳楽 青海波 蘭陵王
演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.075-812-7222

春日大社 文化の日舞楽演奏会 (奈良)
11月3日(金・祝)
午前10時 祭典にて舞楽 還城楽(左)
午後1時半 神苑内 管絃 太食調 音取
抜頭 舞楽 振鉦 打球楽 陪臚 納曾利
長慶子
問合せ Tel.0742-22-7788

音輪会 第17回雅楽演奏会 (京都)
チケットプレゼント有り
11月4日(土) 午後4時半
京都コンサートホール小ホール
前売3000円、当日3500円
管絃 赤白桃李花 黄鐘調音取 拾翠楽
催馬楽 美作 舞楽 埴破 錦秋楽
問合せ Tel.090-6961-6765

伏見稲荷大社 御神楽 (京都)
11月8日(水) 午後6時
本殿前にて御神楽 早韓神 人長舞
問合せ Tel.075-641-7331

第21回神奈川雅楽部演奏会 (神奈川)
チケットプレゼント有り
11月8日(水) 午後6時半 2000円
緑公会堂
管絃 双調 酒胡子 柳花苑
高野山声明と雅楽
舞楽 五常楽急 蘇利古 迦陵頻 長慶子
問合せ Tel.045-931-1714(北田)
管絃 青海波を聴く (東京)

チケットプレゼント有り
11月11日(土) 午後2時 国立劇場小劇場
一般4100円 学生2900円
お話し 青海波に見る風景

多忠輝(東京楽所)ほか
司会 近藤静乃(東京藝術大学非常勤講師)
垣代 管絃舞楽の次第で聴く青海波
出演 東京楽所
問合せ Tel.0570-07-9900

正行寺雅楽御堂 報恩講法要 (福岡)
11月11日(土) 午後3時 春日山
舞楽 曲目未定
11月12日(日) 午前10時
正行寺 勤行・法話に続き舞楽
曲目未定
演奏 筑紫楽所
問合せ Tel.092-596-8585

秋の六華苑舞楽会 桑名 (三重)
11月18日(土)、19日(日) 両日共
午前10時と午後1時(入苑料310円)
舞楽 振鉦三節 萬秋楽 新鳥蘇 迦陵頻
納曾利ほか
演奏 多度雅楽会
問合せ Tel.0594-48-3484

久米舞 榎原神宮 (奈良)
11月23日(木・祝) 午前11時
久米舞 祭典の中で
問合せ Tel.0744-22-3271

錦天満宮 秋季大祭 (京都)
11月25日(土) 午後2時
舞楽 蘭陵王 納曾利
演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.075-871-1972

**大山寺開創1300年記念コンサート
「悠久の調和」天台聲明と雅楽の調べ(鳥取)**
11月26日(日)
米子コンベンションセンター
舞楽 蘭陵王 登天楽 還城楽
演奏 天王寺楽所雅亮会(以和貴会)

詳細は米子コンベンションセンターHPで
<http://bigship.sanin.jp/>

第2回香椎宮雅楽保存会 演奏会 (福岡)
12月2日(土) 午後6時半 500円
なみきスクエア(福岡市 千早駅西側)
管絃 盤渉調調子 青海波 越殿楽
平調音取 朗詠 嘉辰
舞楽 迦陵頻 抜頭(右)
問合せ Tel.092-681-1001(楠本)

第54回佼成雅楽会公演 (東京)
12月3日(日) 午後1時 無料
立正佼成会法輪閣大ホール
管絃 太食調音取 傾盃楽急 輪鼓禪脱
舞楽 蘭陵王 春庭楽 白浜 長慶子
問合せ Tel.03-5341-1148

雅音会 第12回定期演奏会 (愛知)
12月10日(日) 午後4時 無料
名古屋市瑞穂文化小劇場
管絃 太食調 合歡塩 謡物 嘉辰
舞楽 振鉦三節 陵王 地久 ほか
問合せ Tel.052-741-6363

鶴岡八幡宮 人長の舞 (神奈川)
12月16日(土) 午前10時 御鎮座記念祭
午後5時半 御神楽 人長舞
問合せ Tel.0467-22-0315

春日大社 若宮おん祭 お旅所祭 (奈良)
12月17日(日) 夕方より
舞楽 東遊 振鉦 萬歳楽 延喜楽 賀殿
長保楽 和舞 蘭陵王 納曾利 散手
貴徳 抜頭 落躑 ほか
問合せ Tel.0742-22-7788

下鴨神社 御内御祈禱祭 (京都)
12月22日(金) 午後4時
御神楽 人長 早韓神 演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.075-871-1972

厳島神社 天長祭 (広島)
12月23日(土) 午前9時の天長祭に続いて
舞楽 振鉦 萬歳楽 延喜楽 蘭陵王
納曾利 長慶子
問合せ Tel.0829-44-2020

厳島神社 歳旦祭・地久祭 (広島)
1月1日(月) 午前5時 歳旦祭 振鉦
1月5日(金) 午前5時半より地久祭の祭典
後 舞楽 甘州 林歌 抜頭 還城楽
演奏 厳島神社

厳島神社 厳島神社高舞台にて (広島)
二日祭 1月2日(火) 午後1時
舞楽 万歳楽 延喜楽
元始祭 1月3日(水) 午後1時
舞楽 太平楽 拍棒 胡徳楽 蘭陵王
納曾利 長慶子
演奏 天王寺楽所雅亮会(以和貴会)

上賀茂神社 新年竟宴祭 (京都)
1月5日(金) 午後4時半
舞楽 萬歳楽(予定)
演奏 平安雅楽会

伶楽舎雅楽コンサートno.33 「鶯の囀りといふ調べ」(東京)
1月6日(土) 午後2時 四谷区民ホール
前売3000円、当日3500円
管絃 春鶯囀一具 舞楽 颯踏 入破
問合せ Tel.03-5269-2011

今宮戎神社奉納舞楽 (大阪)
1月8日(月) 午後2時 曲目未定
演奏 天王寺楽所雅亮会(以和貴会)

永久のしらべ 伶楽舎雅楽演奏会 (埼玉)
1月13日(土) 午後2時
全席自由 前売一般3000円
高校生以下2000円 当日一般3500円
蕨市民会館コンクレホール

管絃 双調調子 鳥急 酒胡子 催馬楽
新しき年

芝祐靖 「招杜羅紫苑」 第3曲「招杜羅紫苑」
舞楽 賀殿破急 長慶子
演奏 伶楽舎
問合せ Tel 048-445-7660
(蔵市民会館)

第11回雅楽定期公演東京楽所
「新春の雅楽―舞楽法会」 (東京)

チケットプレゼント有り

1月20日(土) 午後2時 サントリーホール
S席6000円 A席5000円
P席3000円
第一部 舞楽 平舞番舞 桃李花 (左方)
登天楽 (右方)
聲明 略式四箇法要 II 四智讚 唄 散華 対揚
第二部 舞楽 走舞番舞 蘭陵王 (左方)
納智利 (右方)
聲明 合行晏茶羅供養聲明 II 胎藏界 金剛界讚
出演 雅楽 東京楽所 聲明 真言法響会
演出 木戸文右衛門
問合せ Tel 03-3560-3010
(株式会社AMATI)

展示会・新刊など

○展示会 「GAGAKU
―やまがたに息づく宮廷文化―」
9月23日(土)〜12月3日(日) まで
大人3000円 学生1500円
会場 山形県立博物館
「三社寺(山寺・慈恩寺・谷地八幡宮)の舞楽」
11月18日(土) 午後1時半 事前申込み
他にミュージアムコンサートも開催
問合せ Tel 023-645-1111

★読者チケットプレゼント★

☆音輪会 11月4日
京都コンサートホール 5名様ご招待
10月21日必着 招待券を送付
☆神奈川雅楽部 11月8日
緑公会堂(神奈川) 10名様ご招待
10月25日必着 招待券を送付
☆国立劇場青海波を聴く 11月11日
国立劇場小劇場 2名様ご招待
10月28日必着 招待券を送付
☆東京楽所 1月20日
サントリーホール 5名様ご招待
12月30日必着 招待券を送付
応募資格:「雅楽だより」定期購読者
応募方法:はがきに希望の演奏会、住所、氏名、
電話番号など必要事項を記入。
応募先・〒188-0013
東京都西東京市向台町6-12-6 鈴木方
「雅楽だより」編集部

○『林謙三『隋唐燕楽調研究』とその周辺』

長谷部剛・山寺三知 共編訳
雅楽の淵源に迫る名著、八十年の時を経て復活! 宴饗音楽の楽調、すなわち燕楽調はインドに起源し、中国南北朝の末頃から西域の亀茲を通じて中国に伝来し、隋を経て唐代に完成、日本にも伝わり日本雅楽の形成に影響を与えた。世界的に著名な東洋音楽学者林謙三は『隋唐燕楽調研究』(一九三六年出版)において、燕楽調の起源・名称・性質等について、古今東西の文献やインド音楽、日本の雅楽や正倉院楽器などの分析を通じて、はじめて実証的に解明したが、日本語原稿は失われ、郭沫若の中国語訳しか現存しない。本書は、郭訳に基づき日本語版を復元するほか、書き下ろしの研究論文、林謙三の未発表稿なども収録する。

目次

- 1. 出版説明
- 2. 翻訳篇(『隋唐燕楽調研究』)
前言
第一章 隋代前後の調の意義の変遷
第二章 隋代の亀茲楽調
第三章 亀茲楽調の影響の片影
第四章 唐代の燕楽
第五章 燕楽二十八調
第六章 燕楽調の律
第七章 唐楽調の後継者
第八章 燕楽調と琵琶の関係
第九章 結論
附論
附録
3. 研究篇
4. 資料篇

『隋唐燕楽調研究』の新見解を論ず! 陳応時
『唐楽調の淵源』林謙三 「郭沫若」林謙三
『郭沫若さんと私の『隋唐燕楽調研究』』林謙三
『万宝常 彼れの生涯と芸術』郭沫若
あとがき
2200円+税 A5判 380ページ
発行 関西大学出版部
Tel 06-6368-0238



○「林謙三と郭沫若
『隋唐燕楽調研究』誕生秘話」

山寺三知著 林謙三と郭沫若の交流を描いたもので名著『隋唐燕楽調研究』誕生の経緯を解き明かすとともに、郭沫若の日本亡命期における一側面を知る助けとなる。
『国学院雑誌』第一一七巻十一号 二〇一六年十一月)

「雅楽だより」

購読・継続 申し込み方法
購読料一年(4回発行)二千円。(送料込)
郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、
「口座番号」00140-5-614032
「加入者名」雅楽協議会
までお振込みください。ご記入頂いた住所に「雅楽だより」を送らせて頂きます。
あとがき

「雅楽だより」は今号で51号となりました。
原稿や情報をお待ちしています。

「雅楽だより」第51号
2017(平成29)年10月1日
発行 雅楽協議会
編集 雅楽協議会「雅楽だより」編集担当
連絡先 〒188-0013
東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)
TEL・042-4511-8898
FAX・042-4511-8897
メール gagakudayori@yahoo.co.jp
http://www.gagaku-kyougikai.com/

武蔵野楽器

雅楽の楽器・譜面 ほか
〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6
電話 03-5902-7281
Fax 03-5902-7282